

第1回 半導体・デジタル産業戦略検討会議 議事要旨

日時：2021年3月24日（水）18:30～20:20

場所：第1特別会議室、Webex 会議併用

議事要旨

事務局より、資料1～5について説明。

以下、メンバーからの意見（要旨）。

【全般】

- ・現状を踏まえると、日本の半導体産業の再興は容易ではない。日本の半導体産業に対する大きな危機感が共通認識としてある。
- ・他方、現在は国際情勢の変化やデジタル化・グリーン化の流れにより、まさに変化の時にある。チャンスは残されているが、ここで力を入れなければ厳しい。これまで通りではなく、より力を入れていくべき。
- ・新たなゲームチェンジとして、計算方法のアーキテクチャ、データ分析が変わっている。これまでの考え方にとらわれず、技術開発等を進めていくべき。
- ・産官学連携を進めていくべき。

【経済安全保障】

- ・各国が資金支援策や貿易管理施策を強めているように地政学的な流れもあり、国の支援が必要である。
- ・諸外国の企業と公正な競争ができる環境構築が重要。

【先端技術の開発】

- ・経済安全保障やイノベーションを考えて、日本の地からどのように半導体の開発・設計能力を確保するかが重要。
- ・グリーンや、新たなIoT、モビリティなど、幅広い産業と連携していくことで、イノベーションが生まれるのではないかと。
- ・カーボンニュートラルやグリーンが重要視される中、エコで持続可能なコンピューティングや通信が求められている。その中で半導体の重要性はますます増している。

【国際連携】

- ・半導体は複雑なサプライチェーンで支えられており、日本だけでそのサプライチェーンを構築することは難しい。国際連携を含めて進めていくべき。
- ・ユーザーの立場から、仮想化技術など、通信・ソフトウェアの重要性も高まっている。国際連携の中でハードを製造できる日本のメーカーも様々な分野で作っていくことが大事。

【供給基盤の確保】

- ・製造装置や素材が今は日本の強みとしてあるが、国内にその技術力・生産能力を確保し続けることが重要。
- ・需要の喚起が重要であり、投資を回収する市場がないとビジネスとして成り立たない。日本には高度なユーザーがいるので、そうした半導体のアプリケーション開発が重要である。
- ・半導体が初めてアプリケーションされるような製品において、ファーストカスタマーをしっかりと押さえていくことが、中長期的なビジネスの拡大に繋がる。
- ・ハイエンドとミドルエンドは分けて考えるべき。先端的な研究開発や製造能力の確保に加えて、ミドルエンドの供給能力の確保も日本に求められる役割である。
- ・将来の半導体事業への支援が重要であるのに加え、競争力を確保するためには、現行の事業に対するインセンティブ強化も必要。

【過去の振り返り】

- ・日本のシェアが落ちてきた原因は冷静に分析すべき。
- ・法人税制・電気料金など、日本で安定的にビジネスとして半導体を製造できるような事業環境整備を求める。

以上